

対象年度		令和 2年度						総合計画実施計画策定及び行政評価シート					
事務事業名		図書等整備事業						予算事業名		図書等整備事業費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令				
				10	05	05	2001	経常経費					
総合計画体系		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文							事業の区分		主要事業		
		4-2生涯を通じてともに学べる環境づくり(生涯学習・地域教育・									重点事業		
		②地域教育体制の充実							生涯学習課				
		3図書館サービスの充実							担当課係等		生涯学習係		
事業期間		継続 (年度～令和 2年度)											
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】					
図書館利用者及び市民の教養・知識が向上し、文化的に潤いのある生活ができるようになる。								市民の要望並びに憲法(第21条、第23条、第25条、第26条等)及び教育基本法及び社会教育法の「生涯学習」の理念を踏まえた図書館法並びに結城市図書館基本計画書により設置された。					
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】								【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】					
○図書・視聴覚・逐次刊行資料の収集・整備 ○資料提供(資料の閲覧提供・資料の貸出) ○情報提供(ホームページによる利用案内、検索サービス等) ○新規購入及び寄贈図書の整備(ＩＣタグの貼付等) ○レファレンスサービス								図書館利用者及び市民					
								【事業をとりまく環境の変化】 現在の公共図書館を取り巻く環境としては、「少子高齢化の進展」「経済・雇用情勢の変化」「高度情報化社会の進展」等の社会情勢の変化により、新たな視点に基づく役割やサービスが求められているが、ゆうき図書館としても今までの資料の貸出サービスに加え、市民が求める情報をより的確に提供できるためのレファレンスサービスの強化を重点的に対応していく。					
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】					
○資料の収集・整備(図書・視聴覚・逐次刊行資料の収集・整備) ○資料・情報の提供(閲覧・館外貸出) ○地域支援(子育て・ビジネス・行政支援等の情報収集・提供) ○利用者支援(施設・設備の利活用促進)				○資料の収集・整備(図書・視聴覚・逐次刊行資料の収集・整備) ○資料・情報の提供(閲覧・館外貸出) ○地域支援(子育て・ビジネス・行政支援等の情報収集・提供) ○利用者支援(施設・設備の利活用促進)				○資料の収集・整備(図書・視聴覚・逐次刊行資料の収集・整備) ○資料・情報の提供(閲覧・館外貸出) ○地域支援(子育て・ビジネス・行政支援等の情報収集・提供) ○利用者支援(施設・設備の利活用促進)					
■事業費													
				H30年度		R01年度							
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0						
	県		支	出	金	0	0						
	地		方		債	0	0						
	そ		の		他	0	0						
	一		般	財	源	0	0						
歳入計(千円)				0		0							
歳 出 内 訳	節(番号+名称)			金額(千円)		金額(千円)							
歳出計(千円)(A)				0		0							
伸び率(%)													
備 考	総合計画120ページ 予算書176ページ												
	平成29年度から、指定管理者制度の導入により、事業費はゆうき図書館管理運営事業へ移行												

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	年間資料受入点数	点	目標	9,000.00	9,000.00	9,000.00
	図書館資料の年間受入点数。		実績	9,633.00	0.00	0.00
	郷土・行政資料の蔵書数	冊	目標	10,350.00	10,550.00	10,750.00
	郷土・行政資料の累計冊数。令和元年度以降は過去の増加率を参考に推移。		実績	10,313.00	0.00	0.00
成果 指標	図書館貸出点数	点	目標	190,000.00	190,000.00	190,000.00
	図書館の年間貸出点数。		実績	190,155.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	図書館は地域の文化・生涯学習の基盤を担う施設であるため。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	基本的には行政が行う事業であるが、指定管理者制度の導入に伴い適切な選定を経て公益財団法人結城市文化・スポーツ振興事業団が運営しているため。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	常に新しい文化・技術に対応して、サービスを検討していく必要があるため。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	週六日10時間開館している施設として、必要な嘱託・臨時職員を活用して運営しており、改善の余地はないため。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	図書館利用登録に制限を設けておらず、偏りは見られないため。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	郷土・行政資料の収集を積極的に行っているが、目標値に達しなかったため。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	地域の文化・生涯学習の基盤を支える施設として機能し続けているため。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
地域の文化・生涯学習の基盤を支えるための蔵書構築に努めている。 図書館は新しい資料の拡充と適切な蔵書構成を維持していく必要があるが、施設の収蔵能力には限界があるため、除籍等の適切な蔵書管理及び書架の増設を検討する必要がある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
今後も多様な利用者のニーズに対応できるよう、資料の収集・組織化・保存を行い適切な蔵書管理を行う。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 地域の知識、文化、情報を提供・保存する拠点としての役割を果たすために、経費削減とともに蔵書の充実やイベントの企画・開催により、来館者が増えるよう事業を推進していく。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。